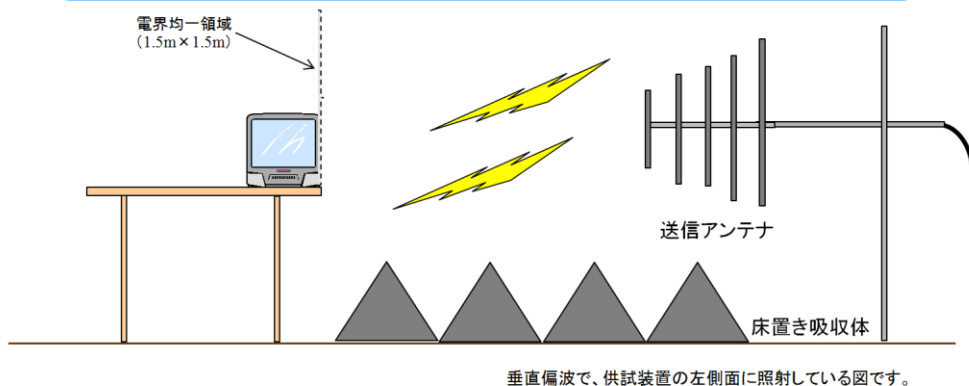


## 24. 放射無線周波電磁界イミュニティ試験

放送局や無線機器等の電磁波による影響を評価  
電磁界の均一性が確保された電波暗室にて試験



福島県ハイテクプラザ EMC-ロメモ24

放射無線周波電磁界イミュニティ試験は、電磁界の均一性(資料No.25参照)が確保された六面電波暗室で行います。

五面電波暗室の場合は、床に吸収体を敷き、電界均一性を確保します。

試験は、供試装置から3m離れた場所に設置された送信アンテナから周波数を変えながら電界を照射し、誤動作が発生しないか調べます。

電界の照射面は、供試装置の正面、背面、右側面、左側面の四面となっており、供試装置の向きを変えて試験します。

また、各面に対し水平、垂直両偏波で試験するため、1台につき8回の試験を行うことになり、各周波数の滞在時間(一周波数あたりの照射時間)にもよりますが、試験には非常に時間がかかります。

なお、各周波数の滞在時間は、供試装置が作動し、反応するのに必要な時間以下にはならず、またいかなる場合でも0.5秒以下にはしない、と規格で定義されています。

たとえば、供試装置が1ルーチン2秒のテストプログラムで動作している場合は、周波数滞在時間は2秒にします。

※「資料を読まれる方に」もお読みください。